

日時	4月16日(火)6限	教科書	川がつくる地形と海岸や海洋の特色 (帝国書籍 p.144, 145)
クラス	2年3組	本時の目標	日本の平野と周辺の海の特徴を説明することができる。
授業者	立川桂佑	本時の狙い	三角ロジックを使って説明したり、資料の信憑性を吟味したりする中で、本時の目標に迫る。
教科	社会		

授業の流れとポイント (白いふきだし：発言、黄色のふきだし：ポイント)

## 0. 導入



附中はどんな地形の上に建っているのだろう？

平地？

なぜ平地の上に建っているのだろう？

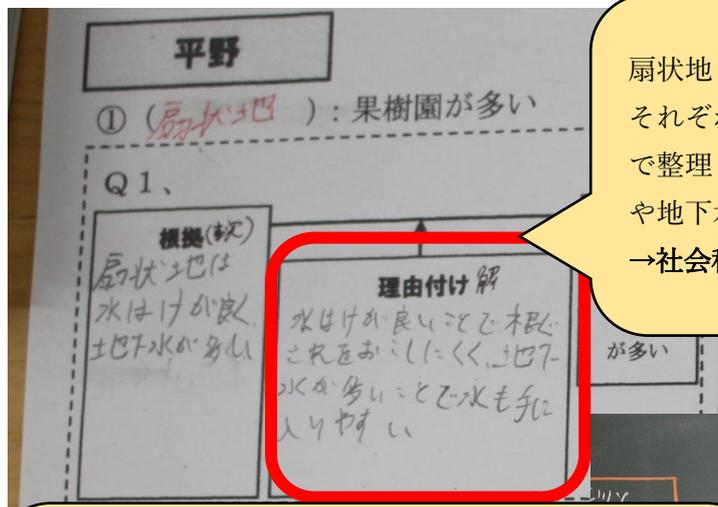
身近な題材を取り上げ、なぜその場所にあるのかについて、考えるきっかけを与えている。

## 1. 日本の平野と周辺の海にはどんな特徴があるのだろう？



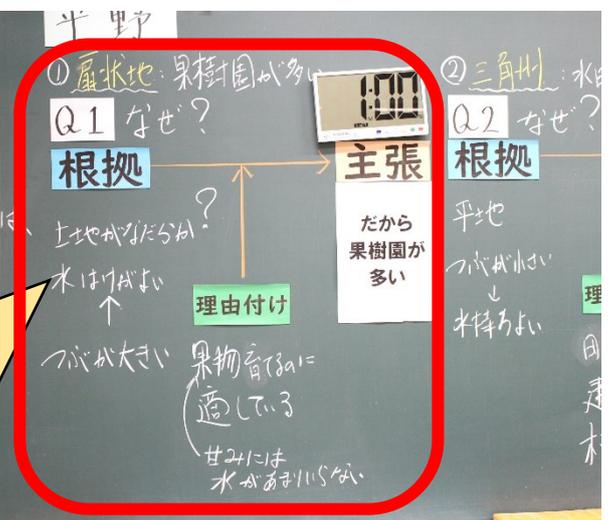
対話型論証モデルで説明しよう！

主張・根拠・理由づけの役割を明確にしている。

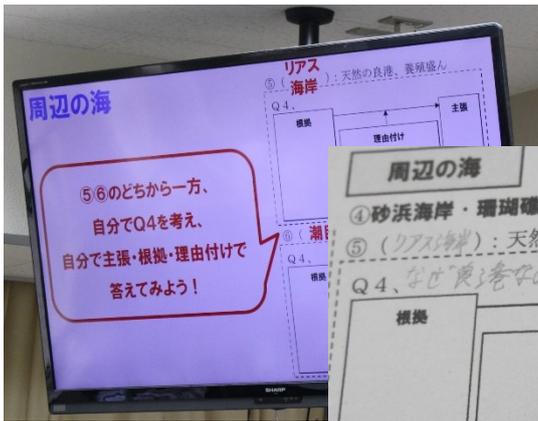


扇状地と三角州について、教科書の説明に留まらず、それぞれの特性について、主張・根拠・理由づけの枠で整理している。この生徒は、扇状地の特性と水はけや地下水などを関連づけて整理しようとしている。  
→社会科の見方・考え方を働きやすくするための工夫

個人で考えさせた後、グループ→全体で考えを共有する中で、同じ根拠であっても理由づけに差が生まれることに気づかせ、社会科の見方・考え方を働かせ、課題に取り組ませようとしている。



## 2. リアス式海岸と潮目



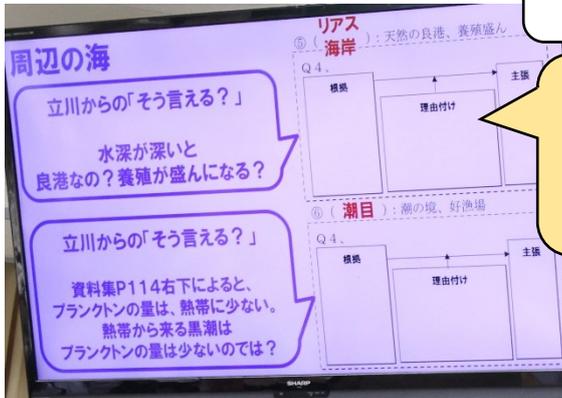
リアス式海岸と潮目について、自分で疑問を立てて、主張・根拠・理由づけで表現してみよう。

社会科の見方・考え方を働かせながら、事実から問いを生み出す過程を経験させている。この生徒は、リアス式海岸の特性である「天然の良港」という事実から、なぜリアス式海岸が良港となるのかという問いを見出し、その解決のために、主張・根拠・理由づけを考えようとしている。



生徒たちは適宜教科書を参考にしながら、根拠や理由づけに活用している。単に教科書を読んで学ぶのではなく、探究的な学びの過程において、資料として教科書を活用している。  
→自己調整の視点から、自らの力で学びを調整する姿が見られた。

## 3. 教師からのゆさぶり



みんなが考えたことは本当にそう言えるのだろうか？

根拠と理由づけのつながりの確かさを問いかける発問を行うことで、生徒の思考を揺さぶっている。  
→見方・考え方をさらに働かせるための工夫

## 4. まとめ

学習課題に対する生徒の答えをまとめさせ、本時で扱った題材についての知識を自分の言葉で表現させる。  
→構造化された知識へ

